



展開の概要と要件

- [デプロイ概要 \(1 ページ\)](#)

デプロイ概要

Nexus Dashboardプラットフォーム

Cisco Nexus Dashboard は、複数のデータセンターサイト向けの中央管理コンソールであり、Insights、Orchestrator、Fabric ControllerなどのCisco データセンター運用サービスをホストするための共通プラットフォームです。これらのサービスはすべてのデータセンターサイトで利用でき、ネットワークポリシーと運用のためのリアルタイム分析、可視性、保証、またCisco ACIやCisco NDFCなどのデータセンターファブリックのポリシー オークストレーションを提供しています。

Nexus ダッシュボードは、上述のマイクロサービスベースのアプリケーションに共通のプラットフォームと最新のテクスタックを提供し、さまざまな最新アプリケーションのライフサイクル管理を簡素化しながら、これらのアプリケーションを実行し維持するための運用オーバーヘッドを削減します。また、ローカルにホストされているアプリケーションと外部のサードパーティ製アプリケーションの中央統合ポイントも提供します。



- (注) このドキュメントでは、Nexus Dashboard クラスタを最初に展開し、1つ以上のサービスを有効にし、それらのサービスによって管理されるファブリックをオンボードする方法について説明します。クラスタが稼働したら、Nexus Dashboard の [設定と操作に関する記事](#)、および日常の操作に関するサービス固有のドキュメントを参照してください。

リリース 3.1(1) での Nexus Dashboard サービスと統合インストール

Nexus ダッシュボードは、一貫した統一された方法ですべての Nexus ダッシュボード製品を使用できるようにするサービスを構築および展開するための標準のアプライアンスプラットフォームです。Nexus Dashboard プラットフォームは、Nexus Dashboard サービス (Insights、Orchestrator、Fabric Controller など) を有効にして、ネットワーク ポリシーと運用のリアルタイム分析、可視性、保証を提供できます。また、Cisco ACI、Cisco NDFC、またはコントロー

ラのないスタンドアロンNX-OS スイッチなどのデータセンターファブリックのポリシーオーケストレーションを実現します。

リリース 3.1(1) より前のリリースでは、Nexus Dashboard にはプラットフォームソフトウェアのみが付属しており、サービスは含まれていませんでした。これらのサービスは、最初のプラットフォームの展開後に個別にダウンロード、インストール、および有効化するようになっていました。リリース 3.1(1)以降、プラットフォームと個々のサービスは単一のイメージに統合され、クラスタの初期設定時に展開して有効にすることができるようになりました。こうして、よりシンプルで合理化されたエクスペリエンスを実現しています。



(注) Nexus Dashboard プラットフォームの以前のリリースでは、多くの場合、個々のサービスの複数のバージョンがサポートされていましたが、統合インストールにより、各 Nexus Dashboard リリースは、各サービスの特定の単一バージョンをサポートし、それらをクラスタの展開時に有効にすることを選択できるようになりました。

さらに、統合インストールにより、クラスタ展開時にサポートされているサービスの組み合わせのみを有効にできるため、サポートされていないサービスの組み合わせが発生する可能性はなくなりました。サービスの共同ホスティングに関する詳細情報は、[Nexus Dashboard クラスタサイジング](#) ツールで入手できます。

ハードウェアとソフトウェアのスタック

Nexus Dashboardは、ソフトウェアフレームワーク (Nexus Dashboard) がプリインストールされた、特殊なCisco UCSサーバ (Nexus Dashboardプラットフォーム) のクラスタとして提供されます。Cisco Nexusダッシュボードソフトウェアスタックは、ハードウェアから分離して、多数の仮想フォームファクタで展開できます。このドキュメントでは、「Nexus Dashboard worker」はハードウェアを指し、「Nexus Dashboard」はソフトウェアスタックと GUI コンソールを指します。

このガイドでは、Nexus Dashboard ソフトウェアの初期導入について説明します。これは、物理、仮想、クラウドのフォームファクタに共通です。物理クラスタを展開する場合は、[Nexus Dashboardハードウェアセットアップガイド](#)で、UCSサーバのハードウェアの概要、仕様、ラック搭載の方法などについて参照してください。



(注) Nexus Dashboard ソフトウェアへの root アクセスは、Cisco TAC のみに制限されています。一連の操作とトラブルシューティング コマンドを有効にするために、すべての Nexus Dashboard 展開のために特別なユーザー `rescue-user` が作成されます。使用可能な `rescue-user` コマンドの詳細については、Nexus Dashboard [ドキュメントライブラリ](#) の「トラブルシューティング」の章を参照してください。

利用可能なフォームファクタ

Cisco Nexus Dashboardのこのリリースは、さまざまなフォームファクタを使用して展開できます。ただし、すべてのノードに同じフォームファクタを使用する必要があります。同じクラス

タ内で異なるフォームファクタのノードを混在させることはサポートされていません。物理フォームファクタは現在、クラスターノード用に2つの異なる Cisco UCS サーバー（SE-NODE-G2 と ND-NODE-L4）をサポートしており、これらは同じクラスター内で混在させることができます。

- 物理アプライアンス (.iso)

このフォームファクタは、Cisco Nexus Dashboard ソフトウェアスタックがプレインストールされた、Cisco UCS 物理アプライアンス ハードウェアを指します。

このドキュメントの後半のセクションでは、既存の物理アプライアンスハードウェアでソフトウェアスタックを設定してクラスターを展開する方法について説明します。Nexus Dashboard ハードウェアのセットアップについては、特定の UCS モデルの [Nexus Dashboard ハードウェア セットアップ ガイド](#) を参照してください。

- 仮想アプライアンス

- VMware ESX (.ova)

VMware ESX 仮想マシンを使用して、Nexus Dashboard クラスターを展開できる仮想フォームファクタ。

- Linux KVM (.qcow2)

Linux KVM 仮想マシンを使用して、Nexus Dashboard クラスターを展開できる仮想フォームファクタ。

- パブリッククラウド

- Amazon Web Services (.ami)

AWS インスタンスを使用して、Nexus Dashboard クラスターを展開できるクラウドフォームファクタ。

- Microsoft Azure (.arm)

Azure インスタンスを使用して、Nexus Dashboard クラスターを展開できるクラウドフォームファクタ。



(注) すべてのサービスがすべてのフォームファクタでサポートされているわけではなく、一部のフォームファクタは特定のサービスのみをサポートしています。展開を計画するときは、このドキュメントの次のいずれかのセクションで、展開するフォームファクタに固有の「前提条件とガイドライン」のリストを確認してください。サポートされているフォームファクタ、サービス、スケール、およびクラスターサイジングの要件のクイックリファレンスは、[Nexus Dashboard クラスターサイジング](#) ツールで入手できます。

スケールとクラスターサイジングのガイドライン

基本的な Nexus Dashboard の展開は、通常、クラスターを起動するために必要な 1 つまたは 3 つのプライマリノードで構成されます。サービスとスケールの要件に応じて、セカンダリノードを

追加して3ノードクラスタを拡張し、サービスの共同ホスティングとより大きなスケールをサポートできます。物理クラスタの場合、プライマリノードに障害が発生した場合にクラスタを容易に回復できるようにするため、最大2つのスタンバイノードを追加することもできます。



-
- (注)
- 単一ノード展開は、限られた数のサービスでサポートされています。最初の展開後に3ノードクラスタに拡張することはできません。
 - 単一ノード展開では、追加のセカンダリノードまたはスタンバイノードはサポートされません。
 - 単一ノードクラスタを展開したものの、それを3ノードクラスタに拡張する必要が生じた場合、またはセカンダリノードを追加する必要が生じた場合は、基本の3ノードクラスタとして再度展開する必要があります。
 - 3ノードクラスタの場合、クラスタが動作し続けるには、少なくとも2つのプライマリノードが必要です。
- 2つのプライマリノードに障害が発生した場合、[Nexus Dashboard ドキュメント ライブラリ](#)の「トラブルシューティング」の記事の説明に従って回復するまでは、使用できません。
-

特定のユースケースに必要な追加のセカンダリノードの正確な数は、[Nexus Dashboard クラスタサイジング](#) ツールから入手できます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。